

2009年度 上期 連結決算 説明資料

2009年11月

保土谷化学工業(株)



I. 上期・決算

上期決算 概要 ①

上期(4~9月)

- 売上高は、顧客側での在庫調整が一巡し、回復基調に
- 営業利益は、コストダウン等の効果も加わり、黒字を確保
- 経常利益・四半期純利益は、
受取配当金の減少、投資有価証券の評価損・
一時帰休損失の計上等により、赤字に

上期決算 概要 ②

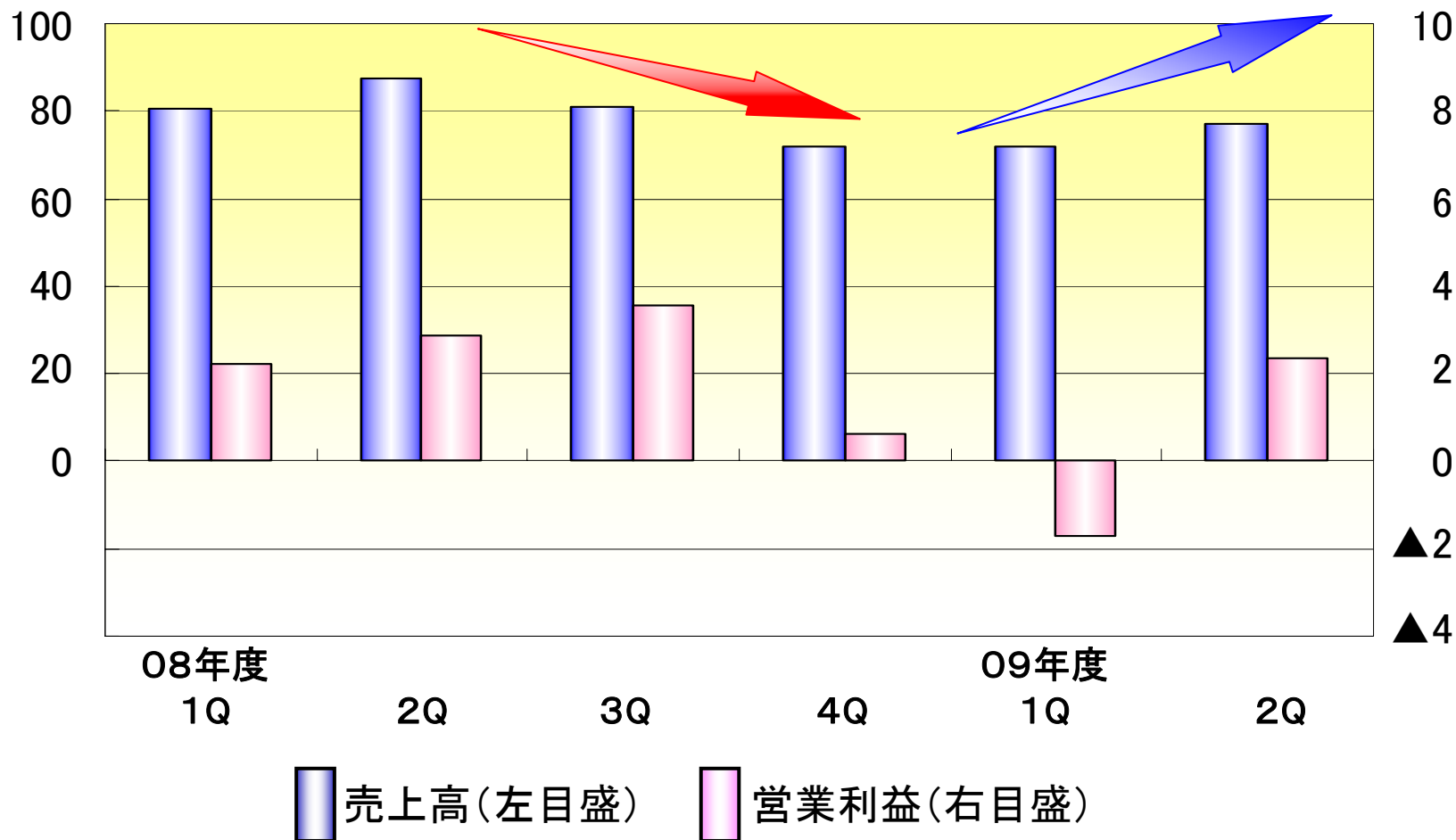
第2四半期(7~9月)

- 第1四半期に比べ、**増収・増益**
- 営業利益・経常利益は、**黒字に転換**
 - ・機能性樹脂セグメント
 - 樹脂材料事業で、需要が回復基調へ
 - ・基礎化学品セグメント
 - ① 過酸化水素
 - 半導体・工業薬品用途向け需要が、回復
 - ② 過炭酸ソーダ
 - 洗浄剤分野での新規顧客獲得により、増収・増益

上期業績(四半期推移 - 2008年度から) ①

単位:億円

単位:億円



上期業績(前年同期比) ②

単位:百万円

科 目	08年度 上期	09年度 上期	増 減 額
売 上 高	16,807	14,868	▲1,939
営 業 利 益	503	64	▲438
経 常 利 益	403	▲316	▲720
純 利 益	▲484	▲696	▲212

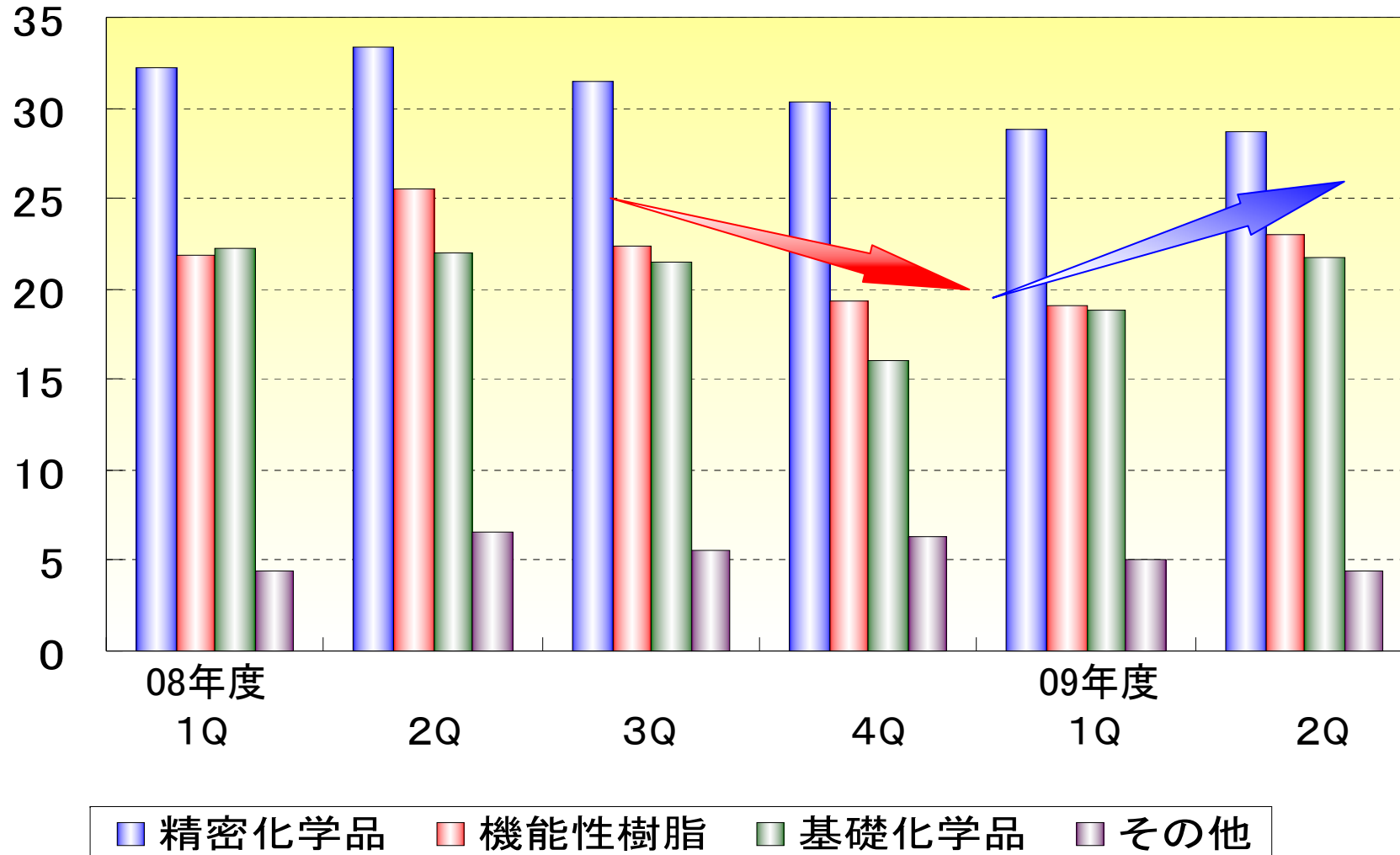
上期業績(四半期推移) ③

単位:百万円

科目	第1四半期	第2四半期	増減額
売上高	7,173	7,695	+521
営業利益	▲170	234	+405
経常利益	▲325	8	+334
四半期純利益	▲568	▲128	+440

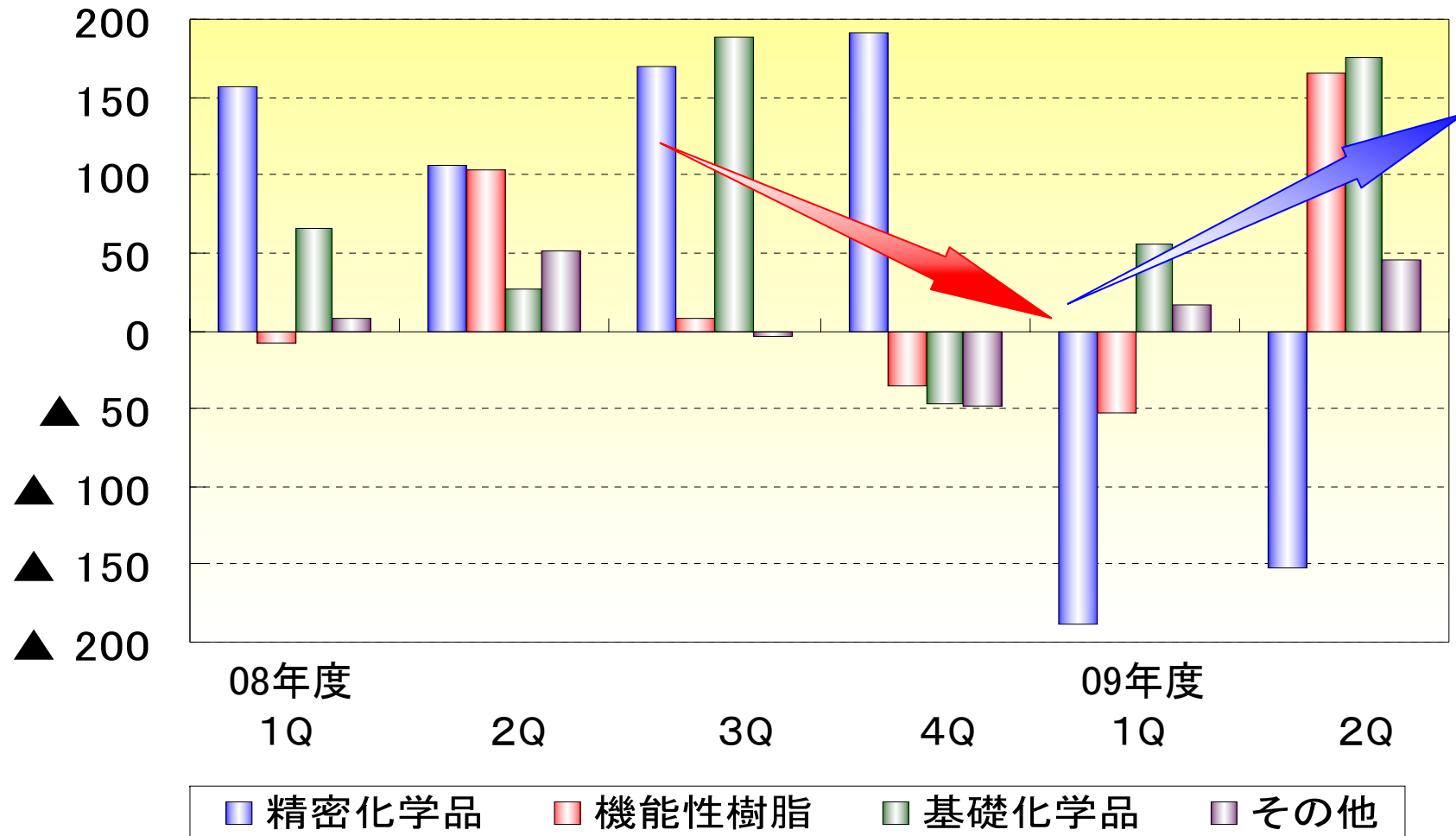
セグメント別推移(売上高) ①

単位:億円



セグメント別推移(営業利益) ②

単位:百万円



セグメント別分析(売上高) ①

単位:百万円

セグメント	08年度 売上	09年度 売上	増減額	増減要因	
				数量・ 構成差	売価差※
精密化学品	6,548	5,745	▲802	▲657	▲145
機能性樹脂	4,744	4,127	▲617	▲763	+146
基礎化学品	4,418	4,047	▲370	▲642	+271
その他	1,095	947	▲148	▲148	0
合計	16,807	14,868	▲1,939	▲2,211	+272

※売価差には為替差▲168を含む

セグメント別分析(営業利益) ②

単位:百万円

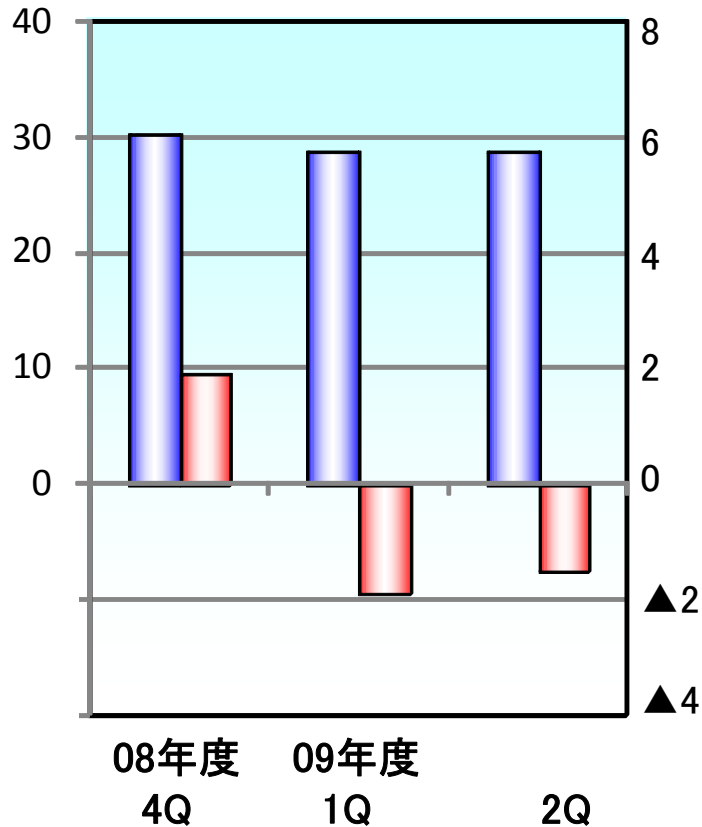
セグメント	08年度 上期	09年度 上期	増減	増減要因			
				数量・ 構成差	売価差※	原価差	販管費差
精密化学品	263	▲ 341	▲ 604	▲ 294	▲ 145	▲ 65	▲ 99
機能性樹脂	95	112	+17	▲ 232	+146	+91	+12
基礎化学品	92	230	+137	▲ 251	+271	+63	+53
その他	60	62	+2	+6	0	0	▲ 4
合計	503	64	▲ 438	▲ 763	+272	+90	▲ 38



※売価差には為替差▲168を含む

セグメント業績動向(精密化学品) ①

単位:億円

単位:億円



 売上高 : 左目盛
 営業利益 : 右目盛

1Q⇒2Q 売上高の動向

特殊
化学品

・樹脂材料向けに、需要回復の兆しが見られ、全体としては増加



電子
材料

・一部に需要の回復が見られるものの、事務機分野の低迷で、全体では、微増にとどまる



色素
材料

・一部に上向き傾向が見られるものの、全体としては、引き続き低調



有機EL

・顧客の量産計画遅延等により、低調



アグロ

・非需要期に入り、減少

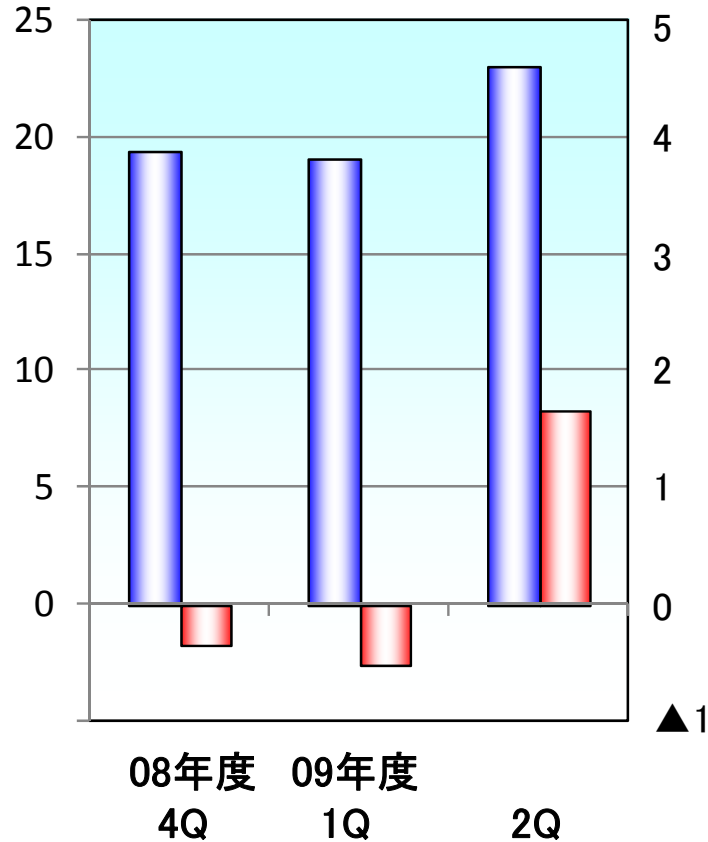


化学で夢のお手伝い

セグメント業績動向（機能性樹脂） ②

単位：億円

単位：億円



1Q⇒2Q 売上高の動向

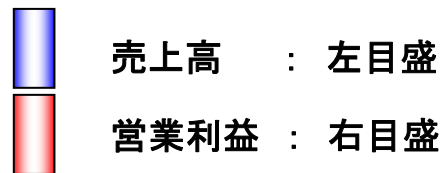
樹脂材料

・自動車関連製品や特殊PTGの需要が回復基調に転じ、増加



建材
(材料販売)

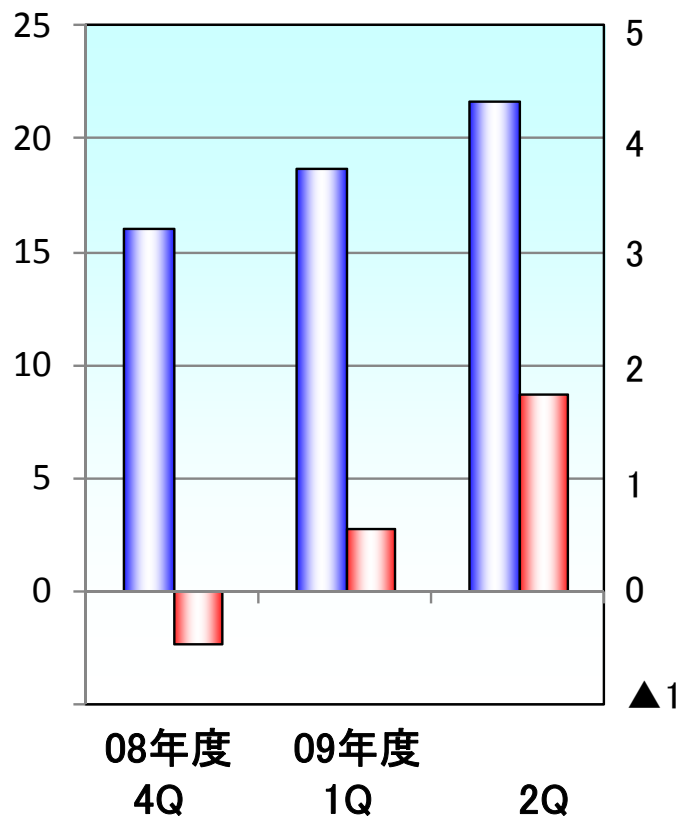
・大都市圏での競争激化による低迷を地方でカバーし、横這い



セグメント業績動向（基礎化学品） ③

単位:億円

単位:億円





過酸化水素

1Q⇒2Q 売上高の動向

・紙パ向け需要は低調だが、半導体向け需要の回復やシェア拡大により、増加



 売上高 : 左目盛
 営業利益 : 右目盛

貸借対照表の比較 ①

2009年3月末

単位:億円、()内は%

流動資産 233 (45.3)	負債 242 (47.0)
[現預金等 69 (13.6)]	[銀行借入]
[棚卸資産 62 (12.1)]	[131 (25.5)]
固定資産 220 (42.8)	純資産 ≒自己資本 272 (53.0)
投資その他 61 (11.9)	

合計 514 (100)

合計 514 (100)

2009年9月末

単位:億円、()内は%

流動資産 237 (46.2)	負債 246 (47.8)
[現預金等 87 (17.1)]	[銀行借入]
[棚卸資産 49 (9.7)]	[141 (27.5)]
固定資産 213 (41.5)	純資産 ≒自己資本 268 (52.2)
投資その他 63 (12.2)	

合計 514 (100)

合計 514 (100)

貸借対照表の比較(コメント) ②

総資産(+0億円)

- ・現預金・有価証券 +18億円
- ・棚卸資産 ▲12億円
 - 在庫削減効果
- ・有形・無形固定資産 ▲6億円
 - 減価償却費 ▲9億円
 - 取得 +3億円
- ・投資有価証券 +4億円
 - 株価上昇による評価益の増加

負債(+3億円)

- ・有利子負債 +10億円
 - 借入金 +21億円
 - 返済他 ▲10億円

純資産(▲3億円)

- ・利益剰余金 ▲10億円
 - 四半期純損失 ▲6億円
 - 配当金 ▲3億円
- ・その他 +4億円
 - 有価証券評価差額金 +4億円

キャッシュ・フロー(CF)計算書 ①

科 目	08年度下期	09年度上期
フリーCF (a+b)	▲1,535	▲872
営業活動CF (a)	▲2,275	▲1,249
投資活動CF (b)	739	▲376
財務活動CF	▲719	928

現金及び現金同等物の増減	▲2,254	+1,804
現金及び現金同等物の期首残高	9,230	6,976
現金及び現金同等物の期末残高	6,976	8,780

キャッシュ・フロー(CF)計算書(コメント) ②

➤ 営業活動キャッシュフロー(+12億円)

1. プラス要因 : たな卸資産の減少(約12億円)、減価償却費の減少(約7億円)
2. マイナス要因 : 税引前四半期純損失(約6億円)、法人税等の支払(約4億円)

➤ 投資活動キャッシュフロー(▲3億円)

固定資産取得(約3億円)

➤ 財務活動キャッシュフロー(+9億円)

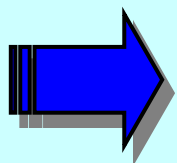
1. プラス要因 : 銀行借入(19億円)
2. マイナス要因 : 約定返済(約7億円)、配当(約3億円)



Ⅱ. 通期・業績見込

環境認識

- 世界的な『バランスシート不況』の中、
更に混迷が深まる、可能性が大きい
- この状況は、長期化する可能性が高く、
当社経営にとっても、「引き続き厳しい環境が続く」と、
認識せざるを得ない



一方で、今までの『常識』が変わる、
あるいは、逆転する“チャンス”

下期 実行予定の「追加的な」収益増強策 ①

1. 『売上高』の増強

拡大する「海外市場」のシェア奪取

2. 『変動費』の削減


製造メーカーとしての「知恵・知識」を総動員

3. 『固定費』の削減

- 1) 従来の管理方法から「ゼロベース」での見直し
- 2) 「在庫＝キャッシュ」の意識を徹底

下期 実行予定の「追加的な」収益増強策の具体例 ②

セグメント		精密化学品					機能性樹脂		基礎化学品	効果概算 (億円)
		電子材料	色素材料	有機EL	特殊化学品	アグロ	樹脂材料	建材	過酸化水素関連	
売上高の増強	新製品の上市									3~4
	既存製品の拡販									
	新規用途の展開									
	新規顧客の開拓									
変動費の削減	原料購入価格の引下げ									0.5~1
	原単位の向上									
	設備の改良									
	包装材料費の削減									
固定費の削減	不要・不急な経費の削減									3~4
	在庫の削減									
	物流拠点の効率化									

 は、特に強化する項目

通期・業績見込 ①

(単位：百万円)

	09年度 上期実績	09年度 通期見込
売上高	14,868	32,000
営業利益	64	1,300
経常利益	▲316	500
当期純利益	▲696	500

通期・業績見込(コメント) ②

- 下期の事業環境も、引き続き厳しい状況が続くと予想
- 一方で、当社の収益トレンドは、
「第1四半期より第2四半期」と改善傾向にある
- 下期も、追加的な収益増強策を実行し、
通期業績予想の達成を目指す

グループ経営理念

私たちは、化学技術の絶えざる革新を通じ、
お客様が期待し満足する高品質の製品・
サービスを世界に提供し、環境調和型の
生活文化の創造に貢献します。